■那須烏山市まちづくり研究会■

≪足利工業大学・栃木県立烏山高等学校≫

「地域経済貢献賞」受賞報告

～『第12回学生＆企業研究発表会』の成果 と今後の展望～

と　き　　2015年12月25日
ところ　　那須烏山市役所烏山庁舎第4会議室

足利工業大学 工学部
建築･社会基盤学系　　福 島　二 朗

共同研究チーム メンバー

足利工業大学：清水亮・布施和也・鳥海航・山口亮・岡本竜馬
丸岡祐也・坂入宣孝／福島二朗(教員)

烏山高等学校：西澤将大・柴野裕紀・高塩飛翔・木村早希
岩田苑希・平野麻由・池田奈々美・平山優花
／藤井啓太(教員)

「地域経済貢献賞」受　賞　！

■研究テーマ■

JR烏山線を基軸とした地域交流機会の拡大に向けた取り組み

～市民ワークショップとフットパス企画の成果を踏まえて～

開催概要と審査結果の公表

（http://www.consortium-tochigi.jp/pdf/gakuseiShien/2015-gakuseihappyokai-report.pdf）

・行 事 名：第12回「学生&企業研究発表会」
・開催日時：平成27年11月28日（土） 9：00～17：15
・開催場所：宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス（宇都宮市大通り1-
・実施結果の概要（資料添付）
　参 加 者：大学関係者、学生の発表者、産業界・企業な　500名
　発表件数：11の大学・専門学校から全分野計76件、企業発
　　　地域社会活性化分野：22件
　　　環境エネルギー分野：13件
　　　ものづくり分野　　：12件
　　　医学・医療・福祉分野：11件
　　　ポスター発表　　：18件
　　　企業発表　　　　：　2件
・審査結果：最優秀賞（知事賞）1件、関東経済産業局長賞1件、金賞5件、
　協賛企業・団体（経済同友会、朝日新聞 等）の冠賞7件を表彰
　他に企業賞19件を選出

■口頭発表部門
1.地域社会活性化分野（22件）
2.環境エネルギー分野（13件）
3.ものづくり分野（12件）
4.医学・医療分野（11件）

■ポスターセッション（18件）
■企業発表（2件）

■口頭発表(4部門)・ポスター発表 の5部門から 1件 選考

≪知事賞1点・関東経済産業局長賞1点・金賞5件≫

■セッションを超えて 7件 選考
(協賛企業や協賛団体などによる冠賞)

≪地域経済貢献賞・栃木県経営者協会賞・栃木県経済同友会賞・栃木信用金庫理事長賞・鹿沼相互信用金庫理事長賞・日刊工業新聞モノづくり地域貢献賞・朝日新聞社賞 ≫

■企業賞 19件

地域経済貢献賞・・・・

■口頭発表(4部門)・ポスター発表 の5部門から 1件 選考

≪知事賞1点・関東経済産業局長賞1点・金賞5件≫

■セッションを超えて 7件 選考
(協賛企業や協賛団体などによる冠賞)

≪地域経済貢献賞・栃木県経営者協会賞・栃木県経済同友会賞・栃木信用金庫理事長賞・鹿沼相互信用金庫理事長賞・日刊工業新聞モノづくり地域貢献賞・朝日新聞社賞 ≫

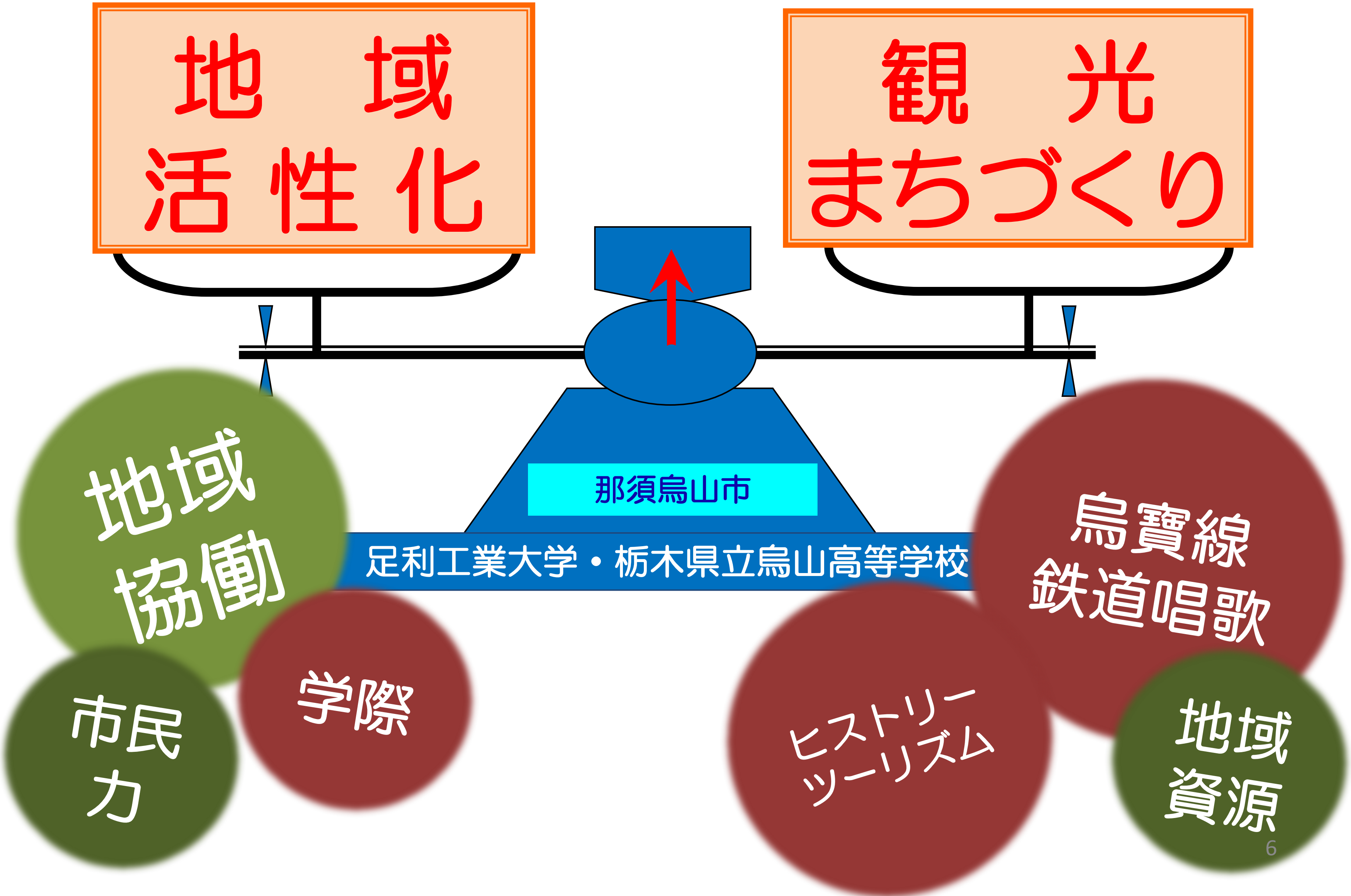
■企業賞 19件

授賞母体は？

栃木県商工三団体協議会

■栃木県中小企業団体中央会
■栃木県商工会議所連合会
■栃木県商工会連合会

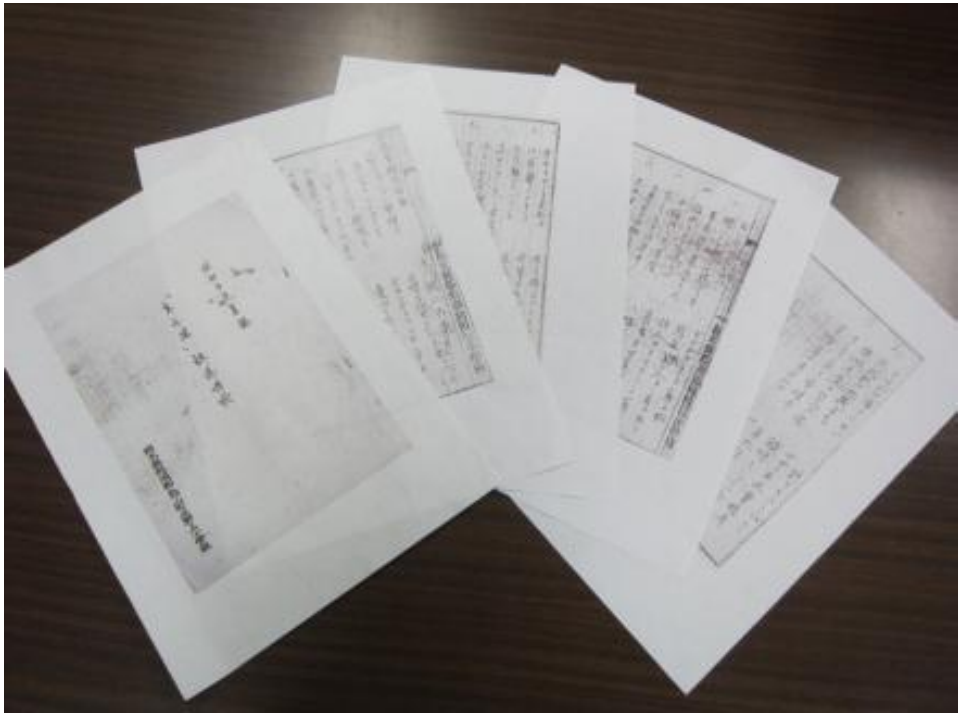
研究のキーワードは・・・



地　域
活 性 化
観　光
まちづくり
那須烏山市
足利工業大学・栃木県立烏山高等学校
地域
協働
市民
力
学際
烏賽線
鉄道唱歌
ヒストリー
ツーリズム
地域
資源

研究の背景

『烏寶線鉄道唱歌』の発掘・解明から....

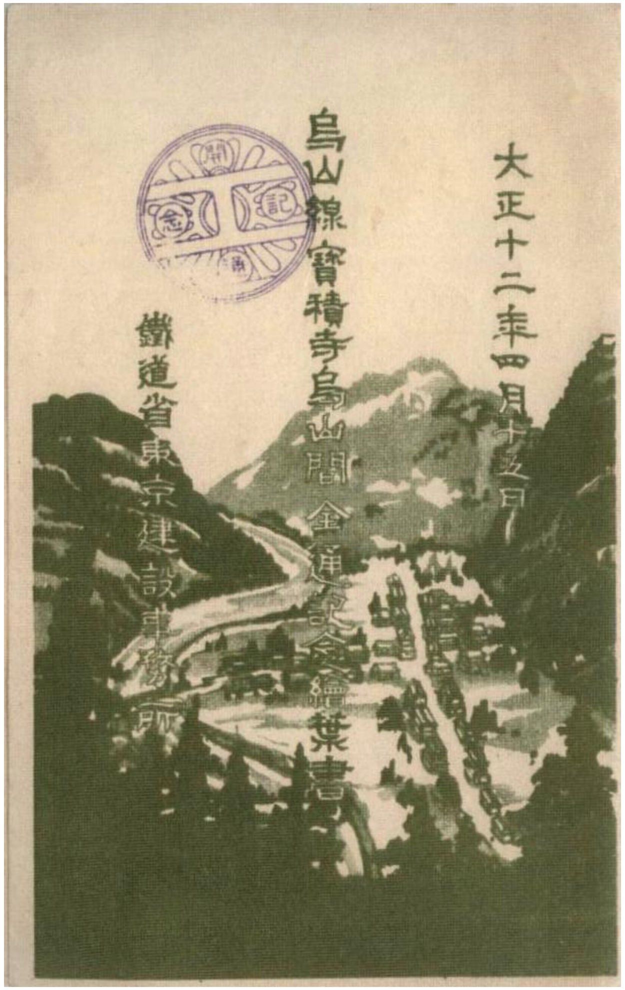


（http://www.geocities.jp/tasii01/uta.htmlより転載）

『烏寶線鉄道唱歌』のコピー
“昭和5年作歌：及川誠二”との記載がある

大ヒットした「鐵道唱歌」（明治33年）

JR烏山線と『烏寶線鉄道唱歌』



（「烏山線寶積寺烏山間
全通記念絵葉書」から転載）

（開業当時の烏山駅「烏山線寶積寺
烏山間全通記念絵葉書」から転載）

（昭和初期の烏山線：古谷弘子氏提供）

■1923(大正12)年5月1日開業。

■日本鉄道の宝積寺駅から分岐し、烏山駅まで全長20.4㎞。開業当初は、熟田･大金を加えた4駅のみ。

■1934(昭和9)年に下野花岡･鴻野山･小塙、1954（昭和29)年に滝駅が開設され、現在の運用に。

2014年度の研究活動(現地調査)

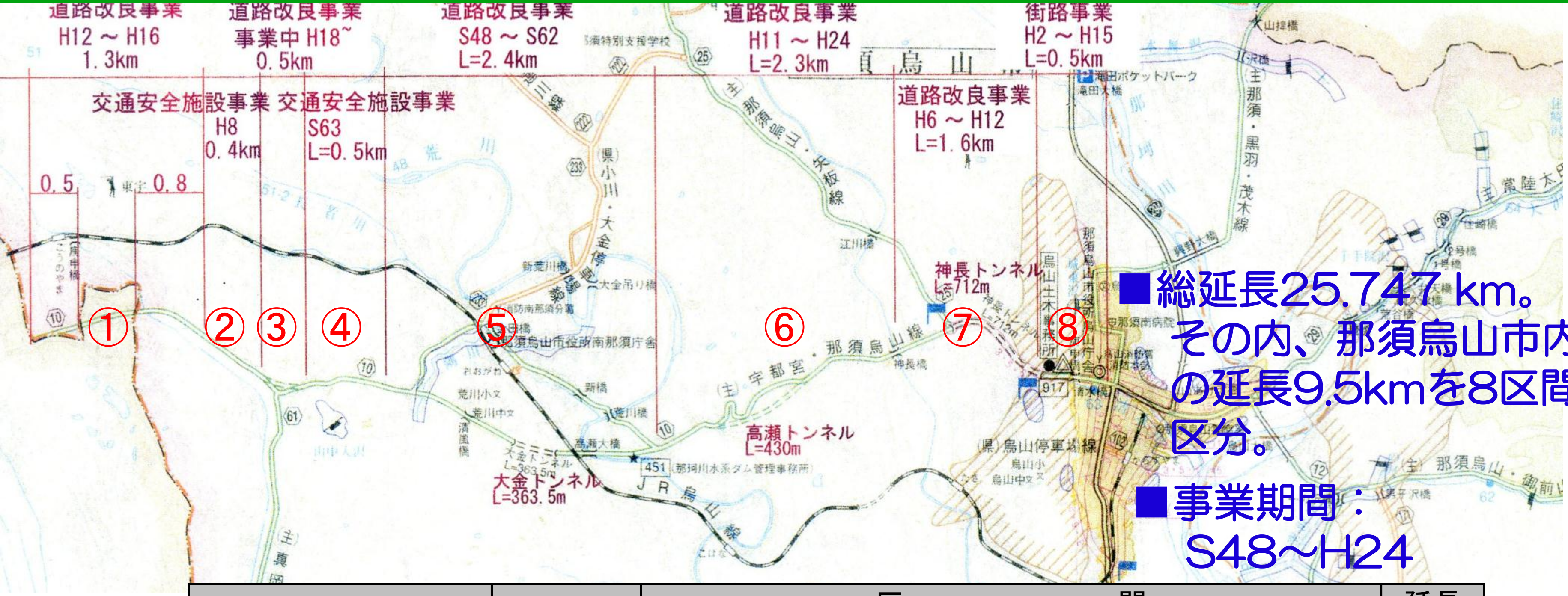
■調査日　2014年8月20日～22日の3日間

■調査員　足利工業大学：布施和也・高橋亮太・岡本竜馬/福島二朗(教員)
　　　　　烏山高等学校：池田尚樹・佐藤拓真・鈴木雄太/藤井啓太(教員)

調査項目	■所在地　■区分(①地名②風景③景観・計勝地④人物⑤建造物⑥その他)
	■分類A(区分①～③:参考文献・資料名)■分類B(区分④:歴史上/近現代)
	■分類C(区分⑤):宗教/教育/産業/交通・通信/土木/その他
	■建造年　■用途　■構造形式(木造/RC/鉄構造/煉瓦造/石造/その他)
	■諸元(長さ/幅)　■改築・改修履歴　■文化財指定等　■管理者　■設計者
	■車窓から(見える/見えない)　■調査者所見・特記事項　■写真(古写真/現在)

2014年度の分析①

近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析



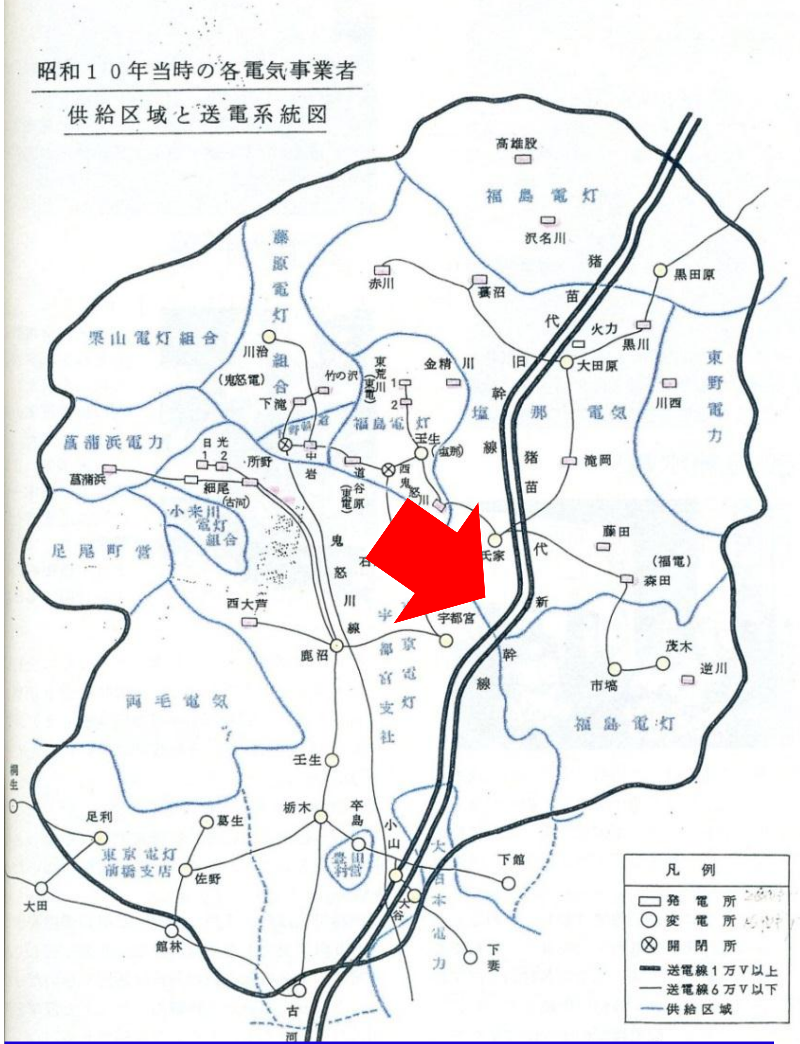
■総延長25.747km。その内、那須烏山市内の延長9.5kmを8区間に区分。

■事業期間：S48~H24

	事　業　名	事業期間	区　間 起　点　－　終　点	延長 (km)
①	道路改良事業	H12～H16	鴻野山字荻之平5　－　小倉坂下1076-1	1.3
②	交通安全施設事業	H8	鴻野山165-1　－　福岡534	0.4
③	道路改良事業(事業中)	H18～	福岡字三百沢652-6　－　田野倉字休場787-4	0.5
④	交通安全施設事業	S63	田野倉756　－　田野倉792-1	0.5
⑤	道路改良事業	S48～S62	田野倉774-1　－　高瀬492-1	2.4
⑥	道路改良事業	H11～H24	高瀬字上川原611-1　－　神長字関下883-1	2.3
⑦	道路改良事業	H6～H12	神長字関下883-1　－　中央一丁目字釜ヶ入774-2	1.6
⑧	街路事業	H2～H15	中央一丁目字釜ヶ入774-2　－　中央一丁目字仲町351	0.5

2014年度の分析②

電力事業についての分析



（東京電力栃木支社「とちぎの電力」から抜粋）

■唱歌19番で“猪湖送電の架空線・・・”と詠われた猪苗代旧幹線・新幹線。それぞれ、大正3年・大正15年に建設された。

■東京圏への電力供給として建設され、猪苗代湖から並列して延びる送電線である。

♪ 花岡校や地蔵寺を　すぎて石末實積寺
猪湖送電の架空線　鐵橹ならべる一奇観

「からせん沿線風景」HPより転載

高層建造物が見慣れた現在とは異なり、唱歌が作られた当時において“奇観”と言う表現の中に、ある種の自慢や誇りとも言える感情の昂ぶりを見ることができる。

2014年度の成果として
『鹿沼相互信用金庫理事長賞』受賞！

■口頭発表4部門・ポスターセッションの5部門から１篇選考
（ 知事賞１点・関東経済産業局長賞１点・金賞3点 ）
■セッションを超えて7篇選考（協賛企業や協賛団体などによる冠賞）
（ 地域経済貢献賞・栃木県経営者協会賞・栃木県経済同友会賞・栃木信用金庫理事長賞・鹿沼相互信用金庫理事長賞・日刊工業新聞モノづくり地域貢献賞・朝日新聞社賞 ）
■企業賞13篇

烏山線唱歌を研究、特別賞

沿線の観光資源発掘

学生&企業発表会で 足工大と烏山高生

【那須烏山】市まちづくり研究会の一員である足利工業大生3人と烏山高生3人による共同研究チームがこのほど、1930年ごろ作られた烏山線の鉄道唱歌を題材にした研究で、「大学コンソーシアムとちぎ第11回学生&企業研究発表会」（宇都宮市）の特別賞「鹿沼相互信用金庫理事長賞」を受賞した。唱歌に歌われた59の学校や建物跡などを調査し、地域資源を見直し、まちづくりに生かすことを提案。同発表会に高校生が参加するのは初めてで、その点も含め高く評価された。（近藤文則）

表彰を受けた足利工大生と烏山高生の共同研究チームのメンバーら

まちづくりの一助に

特別賞を受けた研究は「『烏宝線鉄道唱歌』の解明と近代後期以降の烏山線沿線地域の変容過程」。鉄道唱歌は明治～昭和初期に全国の鉄道で作られ、県内では「下都賀郡鉄道唱歌草案」などが確認されている。研究は1923年に開業した烏山線沿線地域で30年ごろ作られた同唱歌のコピーを、約6年前に同大工…学部の福島二朗准教授が市内で入手したのがきっかけとなった。

チームは福島准教授の指導で、5月から唱歌の歌詞の解明と20編の全文を書き起こし、学校や建物跡、…

…忘れられていた観光資源が発掘できた。まちづくりの一助になれば」。烏山高3年池田尚樹君(18)は「烏山線が好きで調査に参加した。素晴らしい観光資源がたくさんあることが分かった」と満足げだった。

下野新聞
2014.12.27

新聞　（第3種郵便物認可）

「烏山線唱歌」に光

♪烏山高と足工大研究チーム♪

1930年作 沿線テーマ

烏宝線鉄道唱歌を調査した福島二朗足工大准教授（左から2人目）ら研究チーム

ほとんど存在が知られていないJR烏山線の沿線を歌った鉄道唱歌について、烏山高校と足利工業大の共同研究チームが26日、大谷範雄那須烏山市長に調査結果を報告した。作られたのは1930年。烏山駅（那須烏山市）から宝積寺駅（高根沢町）までの当時の自然景観や史跡、建築物などをテーマに20番まであり、ロマンあふれる唱歌だ。

鉄道唱歌は「汽笛一声新橋を」に始まって、明治から昭和初期にかけて全国の鉄道路線をテーマに歌われた。烏山線の唱歌の名称は、烏山駅と宝積寺駅を結んでいることから「烏宝線鉄道唱歌」。

6年ほど前に那須烏山市内の印刷店で歌詞を目にしたことがある足工大の福島二朗准教授が、烏山高校の「まちづくり研究会」に共同研究を持ちかけた。

足工大の学生3人と烏山高校の生徒3人がチームを作り、文献を調べるとともに、8月には現地調査。歌詞には、地名や神社仏閣、小学校、川などが59か所登場するが、58か所の存在が確認できたという。

作詞者は「及川誠二」とあるが、出自や経歴は不明。固有名詞を歌い込み、格調高いことから、研究チームは「地元に縁のある教養人。調べた限りでは、当時の教職者や県の役人ではない」という。

福島准教授は「烏山線の唱歌があったのは驚き。風…

…物が線路から近い距離にあり、唱歌をもとに歩いても面白い。建築物や文学的な観点から、今と当時を比較するのも興味深い」と話している。大谷市長も「唱歌をまちづくりの糧にし、活性化につなげたい」と話した。

読売新聞
2014.12.27

■2014論文概要■

『烏寶線鉄道唱歌』の解明と近代後期以降の烏山線沿線地域の変容過程

足利工業大学 工学部 創生工学科 建築·社会基盤学系 4 年
福島二朗研究室　布施和也（ふせ かずや）

【地域貢献キーワード】「地方都市」「地域資源」「鉄道唱歌」「要因分析」「地域活性化」

1　はじめに

現在、わが国では、地方都市の衰退が大きな課題となっている。その衰退に歯止めをかけるための手法や方法論を模索しながら、各地において種々多様な取組みが行われている。特に、人口流出に伴う財政基盤の脆弱さが顕著な地方中小都市では、地域資源を活用した地域交流の拡大による観光まちづくりが試行され、大きな資金投入に依存しない取組みとして定着しつつある。一方、鉄道を活用した地域振興への取組みも各地で見られ、恒常的な鉄道ファンの存在を踏まえ注目に値する取組みの一つと言える。本研究では、昭和初期の鉄道に関する発掘資料を基軸として、“地域資源” および “鉄道” をキーワードに、地方都市の地域活性化に向けた手法検討を目的とする。本稿はその第一報として、検討のための基礎資料の作成を目途とする。具体的には、発掘資料である『烏寶線鉄道唱歌』の解明および同唱歌が制作されたとされる昭和 5 年当時の地域様態の復元から、当該地域における当時の地域資源の把握を行う。さらに、近代後期から現在までの JR 烏山線沿線地域の変容過程の分析をとおして、地域の浮沈様態の把握を行う。

2　対象地域と調査概要

対象地域は、烏寶線（現在の JR 烏山線。大正 12 年開設）沿線地域となる現在の那須烏山市および高根沢町である。調査は本研究の目的を踏まえ、以下の方針により実施した。①発掘資料の『烏寶線鉄道唱歌』に詠まれた固有名詞をすべてピックアップし、その区分・分類・諸元・形式等を把握する（固有名詞数 59）。②現地調査として路線全線を踏査しながら前記事項の把握と現況写真を撮る。③文献調査により『烏寶線鉄道唱歌』の歌詞の意味を解明する。なお、本研究は栃木県立烏山高等学校との共同研究として実施しており、調査も共同で行った。図 1 に対象地域、表 1 に調査の概要を示す。

図 1　対象地域

表 1　調査の概要

調査日	2014年8月20日～22日の3日間
調査員	■足利工業大学 [illegible]／福島二朗（教員） ■烏山高等学校 [illegible]／[illegible]（教員）
調査項目	■[illegible] ■区分（①地名 ②施設 ③景観 [illegible] ⑦人名 [illegible] ⑨その他） ■分類 [illegible] ■分類 [illegible]／その他 ■[illegible] ■[illegible] ■[illegible] ■写真（古写真／現況）

3　わが国の鉄道唱歌と『烏寶線鉄道唱歌』の概要

鉄道唱歌は、明治 33 年に大和田建樹（国文学者）が作詞し三木佐助（書店経営者）が発行した『地理教育鉄道唱歌第一集・東海道編』がその嚆矢とされ、このシリーズは第五集まで発行され爆発的な人気を博した。その後、鉄道路線網の延伸に伴い各路線の鉄道唱歌が作られた。本研究で取り上げる『烏寶線鉄道唱歌』は、那須烏山市の知人から入手した 5 枚のコピーである。本研究に際し、この『烏寶線鉄道唱歌』の認知度をはじめとするその実態について調査しているが、現在までのところ作歌者の履歴はじめ当該唱歌そのものの存在等、すべて不明である。しかしながら、詠まれた歌詞を丹念に追いかけ解明することにより、当時における当該地域固有の地域資源や周辺地域の風光等、所謂地域の魅力情報に関わる当時の認識の把握に繋がると考える。表 2 に『烏寶線鉄道唱歌』の全文を、図 2 に “風光復元スケッチ” の一例を示す。

表 2　『烏寶線鉄道唱歌』の全文

烏寶線鉄道唱歌　及川[illegible]二 作歌　昭和5年[illegible]			
1	ゆくてはいづこ寶積寺　希望を[illegible]の上にして 春の一日ののどけさを　求めし今日のうれしさよ	2	窓にもたれて朝風を　愛づる折りしも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は　烏山さして出でにけり
3	愛宕の山の峯つゞき　めぐると見れば[illegible]の 宿もいつしかあとに見て　峡を走る心地よさ	4	春の錦のそが中に　黄金咲く花ありて [illegible]春の[illegible]に　思はず胸の躍るなり
5	[illegible]に　[illegible]はこれぞ名にし負ふ [illegible]の名所と[illegible]　[illegible]のあるところ	6	石のきざはし苔むして　[illegible]大師開山の 堂宇をめぐる老杉は　[illegible]
7	汽笛一聲トンネルに　我等が汽車は入りにけり 此處[illegible]のーところ　[illegible]に三町餘	8	森田にきこえし発電所　小高をすぎて荒川の 流れにわたす[illegible]に　かゝれば音のかまびすし
9	かなたに見ゆる山脈の　ふもとにひける一[illegible]の 斜めに[illegible]うすかすみ　[illegible]の[illegible]がたしや	10	いつしか大[illegible]あとにして　[illegible]ふりむくひまもなく 大金驛につきにけり　[illegible]のこゑもほがらかに
11	化石に名ある小河原や　人に知られし十二口 大和久小倉ほど近し　汽車は[illegible]をはいでにけり	12	田の倉[illegible]や安楽寺　[illegible]下に[illegible]荒川を 再び右にながめつゝ　すぐれば[illegible]の松
13	[illegible]ながらの[illegible]を　[illegible]に入るゝ者のあり [illegible]何ぞ[illegible]ならん　[illegible]はすでにこしの[illegible]	14	[illegible]すぎて[illegible]の山　[illegible]は[illegible]けれど 今[illegible]　八幡太郎に知られけり
15	窓より近き[illegible]寺　一向宗にぞしられぬる [illegible]田の三[illegible]寺は　日蓮宗の古[illegible]	16	太田神社を右に見て　左に[illegible]の[illegible] 文挟[illegible]の[illegible]を　すぐれば早やも[illegible]田驛
17	汽車は煙を吐きたてゝ　今ぞ[illegible]田をいでゝ行く 高根沢また[illegible]は　野州米てふ名も高し	18	[illegible]の　水路[illegible]に分れつゝ さすがは[illegible]水田に　[illegible]はこゝかしこ
19	[illegible]や[illegible]寺を　すぎて石末寶積寺 [illegible]の[illegible]　[illegible]ならべる一[illegible]	20	まもなく来る寶積寺　東北線と交りて [illegible]の多ければ　プラットホームは[illegible]如し

図 2　風光復元スケッチの一例

4　近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

唱歌制作以降における地域の変容について、①市街地整備、②小学校と児童数、③電力事業について分析を行った。ここでは、①市街地整備に伴う景観変容について述べる。

図 2 のスケッチの景観は唱歌 4 番で詠われており、現在の烏山駅から野上地区にかけての周辺地域を詠ったものである。この地域における街路事業は、公園通り（昭和 25～36 年度）、旭通り（昭和 29～48 年度）等が旧烏山町直轄事業として実施されるとともに、表 3 および表 4 に示す栃木県営事業も行われている。また、区画整理や宅地開発事業が旧烏山町および民間により行われている（表 5）。特に、旧烏山町が実施した泉土地区画整理事業では、区画整理地区内の 80%を占める畑地が道路等の公共用地や市街地として整然とした区画変貌に伴い、農村景観の喪失に大きく関わったものと考えられる。

5　まとめ

本稿では、昭和 5 年に制作されたとされる『烏寶線鉄道唱歌』の解明を基軸に、当該地域における地域資源の掘起しと、近代後期から現在に至る間の地域の変容過程について分析を行った結果、以下のことが分かった。（1）自然景観の豊かさと歴史に根差した物語性が地域の大きな魅力になり得ること。（2）『烏寶線鉄道唱歌』に詠われた個々の地域資源までの距離は駅から歩行距離圏にあること。（3）地域資源は地域を成り立たせ支えてきたものであり、近代後期以降の地域の趨勢に関わる分析成果はヒストリーツーリズムの検討[illegible]こと。

今後は、地域活性化に向けた具体的な検討を行う所存である。

表 3　街路事業の整理①主要地方道宇都宮那須烏山線

事業名	事業期間	区間 起点 — 終点	延長 (km)
[illegible]	H12～H16	[illegible]之平5 — 小倉坂下1076-1	1.3
[illegible]	H8	[illegible]165-1 — [illegible]534	0.4
[illegible]（[illegible]中）	H18～	[illegible]652-6 — [illegible]787-4	0.5
[illegible]	S63	[illegible]756 — [illegible]792-1	0.5
[illegible]	S48～S62	[illegible]774-1 — [illegible]492-1	2.4
[illegible]	H11～H24	[illegible]611-1 — [illegible]883-1	2.3
[illegible]	H6～H12	[illegible]883-1 — 中央一丁目字[illegible]774-2	1.6
[illegible]	H2～H15	中央一丁目字[illegible]774-2 — 中央一丁目[illegible]351	0.5

表 4　街路事業の整理②一般国道 294 号

事業名	事業期間	区間 起点 — 終点	延長 (km)
道路改良事業 [illegible]（野上、[illegible]工区）	H7～H18	向田370-2 — 野上449-1	1.8
道路改良事業 野上	~S56	野上431-2 — [illegible]	[illegible]
道路改良事業 野上	H7～H12	[illegible]	[illegible]

[illegible]				2.6
高峰パークタウン	[illegible]	民間	—	273

＊本研究は[illegible]との共同研究として実施した。また、「那須烏山市まちづくり研究会」の活動の一環でもある。

今後は・・・
具体的な検討

自然景観の豊かさ
歴史に根差した物語性

『烏寶線鉄道唱歌』
地域資源：駅からの歩行距離圏内

地域交流機会の創出
ヒストリーツーリズム

2015年度の研究活動とその狙い

地域活性化に向けた

具体的な検討

前回の宿題

市民WS ＋ FP企画 ⇒ 地域資源 回遊マップ

市民WS	FP企画	回遊マップ
地域資源の抽出過程	年齢・地域を超えて	参加・応募・製作過程
市への思い共有化	広い年代層参加促進	■地域理解の深化 ■地域づくり参加

2015年度の研究成果と今後の展望

■2015論文概要■

「地域経済貢献賞」受賞！

≪評　価≫

新しい発想による

情報発信　＆
まちづくり手法

オール那須烏山
＋
足利工業大学

課題：『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作・・・